

NEWS *Club* OVA

第35号

「言葉は、相手の心で完成する」

WORDS HAVE P

合同会社LINOHANA

ママライフサポーター

筑紫 結



2024年12月11日発行

「言葉は、相手の心で完成する」

みなさん、こんにちは。

脳大成理論とコーチングから、家庭も仕事もうまくいく思考術とコミュニケーションをお伝えする、合同会社LINOHANA代表の筑紫結です。

日々の仕事や家庭の中で、言葉が意図した通りに伝わらなかったと感じる瞬間はありませんか？

例えば、忙しい朝に「早く準備して」と子どもに伝えた言葉が、期待とは裏腹に不機嫌な態度を引き出してしまうことがあります。同じように、職場での会議中に発した何気ない一言が、思わぬ誤解を生むこともあるでしょう。

こうした「すれ違い」は、私たちの言葉が「単独で意味を持つわけではない」ことを物語っています。

実は、言葉は受け取った側の「状況」や「感情」、さらには「過去の経験」によって完成するのです。

心理学や脳科学の視点から見ると、言葉の受け取り方は相手の脳の状態や心の準備に強く左右されます。

たとえば、「早くして」というフレーズ。

発した側としては「時間がないから急いでほしい」というシンプルな意図があるかもしれませんが。しかし、受け取る側が疲れていたりストレスを感じていたりすると、その言葉は「急かされている」「責められている」といった感情を引き起こしてしまうことがあります。

言葉が持つ意味は、相手の解釈に依存しています。そして、その解釈は一瞬にして脳内の「経験」や「感情フィルター」を通して行われます。この仕組みを理解することは、家庭でも職場でも、よりよいコミュニケーションを築くための第一歩となります。

言葉が持つ意味は、相手の解釈に依存しています。そして、その解釈は一瞬にして脳内の「経験」や「感情フィルター」を通して行われます。この仕組みを理解することは、家庭でも職場でも、よりよいコミュニケーションを築くための第一歩となります。

こうしたすれ違いを防ぐには、まず相手の状況や気持ちに思いを巡らせることが大切です。「この言葉はどう受け取られるだろう？」と少し立ち止まるだけで、言葉の選び方や伝え方を変えられることも多いものです。

たとえば、急いでほしいときには「早くして」ではなく、「急いでくれると助かるな」と言い換えるだけで、相手に伝わるニュアンスが随分と柔らかくなります。さらに、相手がどう受け取ったかを確認する姿勢も重要です。「こう伝えたけれど、大丈夫だったかな？」と後からフォローするだけで、誤解を未然に防げることもあります。

言葉を届ける相手の視点に立つことは、相互理解と信頼構築の鍵となります。これは、家庭だけでなく、ビジネスシーンでも有効です。例えば、部下にタスクを任せる際、「これをすぐにやっておいて」と指示するのではなく、「これを最優先で進めてほしい。理由は…」と、背景を含めて丁寧に伝えることで、相手の受け取り方が大きく変わります。こうした配慮の積み重ねが、チーム全体の信頼感を高め、成果につながるのです。

★合同会社LINOHANAの筑紫さんと直接お話し出来ます(^_^)

職場等の人間関係、ご家族や子育てでお悩みの方。筑紫さんと一度お話ししてみませんか??

合同会社LINOHANA代表
ママライフサポーター™ 筑紫結

Instagram : https://www.instagram.com/tsukushi_y/



facebook : https://www.facebook.com/profile.php?id=100004310221298&locale=ja_JP



サービス案内 : <https://linohana.my.canva.site/linohana>

